

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1090200112
法人名	医療法人富士たちばなクリニック
事業所名	グループホーム涼風の家
所在地	高崎市倉渕町水沼上相間131番地1 (電話)027-378-3030

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年11月5日

【情報提供票より】(平成21年10月19日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成19年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.9人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階～	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	48,000 円	その他の経費(月額)		
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円

(4)利用者の概要(10月19日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	56歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	富士たちばなクリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲に山々を望み、北側には公園や温泉施設がある自然豊かな環境の中にグループホームはある。職員は、利用者の個々を尊重し、一人ひとりの持っている力を引き出す取り組みとして、昔作った料理を教えてもらい一緒に作ったり、家庭菜園作りのアドバイスや収穫を楽しんだり、ホーム内の擬似売店で買い物等をしながら、笑顔の絶えないホーム作りに取り組んでいる。また、日常の散歩や行事等を通して、地域の人達とのつながりを大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回改善課題の地域密着型サービスとしての理念には、職員全員で話し合い「地域の方々との支え合い」という言葉を加えている。重度化や終末期に向けた方針の共有には、基本的な対応の勉強会を開催し、協力医・職員・家族との連携を重視し、住み慣れた土地での看取りを支援していく為の話し合いを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び全職員が評価の意義を理解し、業務の振り返りとして全職員で取り組み、管理者がまとめカンファレンスで確認している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4.5.6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、事業所から利用者の状況・行事報告等を行い、地区、家族の代表者や行政の方と話し合い意見や情報を頂き、それらを職員会議等で話しあった上で生活の中に取り入れるよう努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を玄関に設置している。面会時に職員側から積極的に尋ねるよう努め、来られない方には電話で利用者の状況等を報告しながら尋ねるようにし、意見、苦情、不安にすぐに対応するよう話し合いを重ね、施設運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の保育園の運動会や中学校の文化祭に招待されたり、近隣の特別養護老人ホームの納涼祭に出かけている。ホームの夏祭りには、家族、市の方、地域の方等を招待し楽しんでいる。また、ボランティアの日本舞踊・大正琴は毎月訪問して頂いたり、クリスマスにはゴスペルをして頂いている。天気の良い日は出来るだけ散歩をし、地域の方々と挨拶を交わしたり野菜を頂いたり、地域との交流に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念の見直しを行い「地域の方々との支え合い、個々が、生き生きと生活できる笑顔の絶えないホーム」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関及び事務室に理念を掲示し、毎朝の申し送りやカンファレンス時に唱和し、職員は理念に基づき、利用者の気持ちを考え笑顔で接するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり、野菜を頂いた事もある。地元の保育園の運動会や中学校の文化祭に招待され参加したり、近隣の特別養護老人ホームの納涼祭へ出かけている。ホームの夏祭りには、家族・市の方・地域の方を招待している。また、ボランティアの日本舞踊や大正琴などを楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、業務の振り返りとして全職員で取り組み管理者がまとめ、カンファレンスで確認している。外部評価の結果についても理念の見直しや重度化や終末期に向けた方針について会議で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の運営推進会議では、事業所から利用者の状況報告や行事報告等を行い、家族代表、行政、地区代表者の方々とは話し合い、意見や情報を頂いている。家族からは、「知人が多いので散歩に出て欲しい」「地域の行事を教えてほしい」等の出された意見を職員会議で話し合い、生活の中に取り入れるよう努めている、報告書は、廊下・玄関に掲示している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	更新や変更申請時の提出、運営推進会議や行事等の案内状などを届ける際に、市の関係者と情報交換を行っている。社会福祉協議会や福祉センター職員との関係も密に取られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話等で、利用者の日頃の様子や健康状態、職員の異動等を報告し、来られない方にも電話で報告しながら面会を促し、少ない人でも2ヶ月に1回は面会して頂いている。健康状態変化時には、速やかに連絡をしている。預かり金は1万円とし、面会時に収支の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに、職員側から積極的に尋ねるように努めている。地域から聞こえて来る意見も申し送りノートやケース記録に記録し、カンファレンスや小会議等で話し合い、運営に反映させている。意見や要望等自由に投函されるよう玄関に意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動の際には、利用者や家族に管理者から理由を十分に説明している。新入職員は、入職前にボランティアに来てもらい、利用者とは接する時間を設けながら利用者へのダメージを少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基礎研修や実践者研修等外部研修には、その職員にあったものを選んで参加している。研修後は報告書を提出し、伝達研修及び意見交換を行っている。また、法人内では勉強委員会があり月に1回勉強会が行われ、積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。法人内のグループホーム研修や交流は行われているが、他のグループホームとの交流は少ない。	○	他の同業者との相互研修や見学等により、他から学ぶ事により、更に質の向上を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人や家族がホームを見学したり、宿泊して目で見て感じてもらい、不安や疑問を解消できるように努めている。入居後は、徐々に慣れるよう見守り、家族等との連絡を密に取り合っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、地域の方言やお切り込み・ふきのとう入りお焼き等の昔からの料理を教えてもらい、利用者と一緒に作ったりして、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や職歴を参考に、また日常会話の中で個々の意見や要望を得る等、把握に努めている。またインタビュー(本人や家族から事情を聞き問題点や要望を明確化し援助につなげる)用紙を統一させて、把握しやすいよう修正が行われている。困難な場合は、家族等から情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を聞く他、各利用者の担当職員を決め、日々の生活の中での気づきを「申し送りノート」へ記入し、ミニカンファレンスでケアについて全員参加で検討し介護計画を作成している。介護計画は、家族に確認していただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月毎の計画の見直しを行っている。健康状態等の変化時は、家族や関係者と話し合い、全職員で検討し、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎や受診時に家族介助が困難な場合には付き添いを行っている。利用者の希望で、自宅に服を取りに行く等柔軟な支援を行っている。また、出張理美容も受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族の意向を尊重し希望のかかりつけ医とし、職員は適切な医療が受けられるよう状況の報告を行っている。協力医が主治医となる利用者は、月1回の往診を受け、結果は家族へ報告している。急変時の相談や対応等協力医との連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ここで暮らしていたのだから最後まで看取ろう」と医師の意見もあり、重症化や終末期に向けて勉強会を行い、カンファレンスで話し合い方針の共有をしている。終末期ケアの希望の場合は、本人や家族の意向を尊重し、家族や協力医、看護師、職員間で充分話し合い支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活の中で、プライバシーを損ねないよう言葉かけに注意している。記録等は食堂で記入し、事務室の鍵のある書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の予定はあるが、希望や意見を尊重し一人ひとりのペースを大切にしている。自室で食事をする方や散歩に外に出てしまう方には、そっと見守る等本人が一番したいように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にとらわれず、その日の食材に合わせて臨機応変に利用者の要望を取り入れながら提供している。野菜の下準備や下膳、食器洗い等も利用者と職員が一緒に行っている。また、利用者と職員は同じテーブルで和やかな雰囲気の中で食べている。時には、庭でバイキング形式で食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3～4日の入浴であるが、毎日でも希望があれば入浴が可能である。ゆったりと入浴できるように入浴時間は十分にとっている。入浴時は、歌を歌ったり、温泉の話をしたり、ゆず湯をしたり入浴が楽しめるよう支援している。入浴を拒否する方には、時間をかけて再度声かけをしたり、次の日入っていただく等している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップかけ・はたき・テーブル拭き等の掃除、洗濯物を干したりたたんだり、お盆拭き等を、「手伝っていただけますか」と声かけをして行って頂いている。また、畑での野菜作りのアドバイスを頂いたり、一人ひとりの力が生かせるよう支援している。ホーム内で週2回駄菓子屋さんの擬似売店を実施し、買い物を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は希望により、散歩やドライブに出掛けている。蛍公園や榛名の梅、水沼の獅子舞等に出掛けている。また、ウッドデッキには椅子が置かれ、日光浴が楽しめるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・玄関全てに鍵をかけていない。自由に花壇や畑、ウッドデッキにでられるよう、開放的な空間作りに努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、定期的に消火・避難訓練を利用者と一緒に行い、夜間想定も行われているが、近隣の方の協力が得られていない。非常食の備蓄や災害袋の準備をしている。	○	災害時に地域住民の協力が得られるよう、運営推進会議等で提案していく等働きかけを行っていく事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はチェックし、バランスの良い食事を心がけている。管理者が、1週間ごとに献立表の見直しをしている。利用者の状態や力に合わせた食事形態や量を提供し、水分は不足しないように補充している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いホールの窓からは外の景色がよく見え、ウッドデッキにはベンチが置かれ周囲の山々や公園が眺められる。テーブルには花が飾られ、窓際には面会時に利用できるソファを設置している。ホールや廊下の壁には、行事の写真や貼り絵が掲示され、季節に応じて交換をおこなっている。ホールの隣が台所となっていて、調理の音や臭いをじかに感じられる作りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベット・洗面台が設置されており、本人の使い慣れた机や椅子が持ち込まれ、家族の写真やカレンダーが本人や家族の好みにより居室内に飾られ、居心地良く過ごせる空間となっている。		